2024年度 自己評価結果公表シート 健生くまのこ園

1. 保育園の保育目標

保育所保育指針に基づき、園児と保育者が共に笑顔で楽しく保育を実践することで、園児の健やかな成長をサポートする保育環境を提供する。

2. 本年度取り組む重点目標

①	子ども一人一人の主体性を育む環境づくり 週に1～2回の頻度で、「制作活動等」、「遊び」において、子ども一人一人が、じっくり取り組む適切な時間を設定し、保育所保育指針の求める0歳児から2歳児までに育む力（感性、創造性、集中力、忍耐力、継続性）を養える環境を提供する。
②	保育者のスキルアップ 保育者のスキルUP、特に0歳児～3歳未満児における保育所保育指針の求める培うべき力について理解を深め、理論的背景と創意工夫による楽しさの中にお実践力と洞察力を習得する。
③	チーム保育強化 個々の職員のチーム保育への理解と実践に必要な相互理解力、コミュニケーション力、協調性、共同性、感謝、敬意、リスペクト、相手に分かりやすく伝える力を養う。

3. 重点目標達成に向けての具体的な計画

重点目標 ①	子ども一人一人の主体性を育む環境づくり 週に1～2回の頻度で、「制作活動等」、「遊び」において、子ども一人一人が、じっくり取り組む適切な時間を設定し、保育所保育指針の求める0歳児から2歳児までに育む力（感性、創造性、集中力、忍耐力、継続性）を養える環境を提供する。
園運営	① <u>月齢別・発達段階別に合わせた活動内容の計画</u> 0歳児：感触遊び、手遊び、絵具遊びなど 1歳児：クレヨンや粘土を使った制作、ごっこ遊びなど 2歳児：簡単な工作、ブロック遊び、お絵描きなど ② <u>子どもたちの興味や関心を引き出す環境づくり</u> 子どもたちが自由に材料や道具を選べるようにする 保育者が遊びのヒントやサポートを提供する ③ <u>子どもの主体性を尊重し、集中して取り組める環境づくり</u> 静かな環境を作る 他の活動への参加は強制しない ④ <u>子どもの作品を大切に扱い、達成感を味わえるようにする</u> 作品を掲示したり、持ち帰ったりできるようにする 子どもたちの努力を褒める

重点目標 ②	保育者のスキルアップ 保育者のスキルUP、特に0歳児～3歳未満児における保育所保育指針の求める培う

	べき力について理解を深め、理論的背景と創意工夫による楽しさの中にお実践力と洞察力を習得する。
園運営	<u>研修の実施</u> 年間 1 回以上、外部研修・Web 研修、管理者等による研修を実施 「研修テーマ例」 ・ 0 歳児～3 歳未満児の発達と保育 ・ 異年齢保育における保育実践 ・ 子どもたちの興味や関心を引き出す環境づくり ・ 研修後の振り返りと実践への活かし合い
	① <u>事例研究・検討</u> ・ 月に 1 回、保育者同士で事例を持ち寄り、意見交換を行う ・ 具体的な保育実践の共有 ・ 子どもたちの反応や課題の分析
	② <u>読書会</u> ・ 年に 2 回、保育関連書籍を読 and 意見交換を行う ・ 最新の保育理論の理解 ・ 保育実践への活かし合い

重点目標 ③	チーム保育強化 個々の職員のチーム保育への理解と実践に必要な相互理解力、コミュニケーション力、協調性、共同性、感謝、敬意、リスペクト、相手に分かりやすく伝える力を養う。
園運営	① <u>チームミーティング</u> ・ 週に 1 回、チームミーティングを実施 ・ 保育内容や子どもの様子について共有 ・ チーム目標の設定と計画 ・ 課題解決に向けた話し合い
	② <u>合同研修</u> ・ 年に 1 回、全職員参加の合同研修を実施 ・ チームワーク強化を目的とした研修 ・ チームワークを高めるためのゲームやアクティビティ
	③ <u>相互観察</u> ・ 保育者同士が互いの保育を相互観察 ・ フィードバックの共有 ・ 保育実践の改善

4. 重点目標の達成及び取組状況

A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、成果が十分でない

D: 取り組まれていない

評価項目	結果	理	由

①	B	各職員が目標を念頭に高い意識をもって各種計画に基づき、「子ども一人一人の主体性を育む環境づくり」に取り組むことができた。 各年齢期に応じた、「制作活動等」、「遊び」においては、各発達年齢期の成長や個人差を踏まえた、きめ細かな対応がもう少し高いレベルで行えると良かった。次年度はその点を踏まえて、研修、自己研鑽等を含めて発達年齢期のさらなる知識・理解を深めていきたい。
②	B	保育者のスキル UP、特に 0 歳児～3 歳未満児における保育所保育指針の求める培うべき力について理解を深めてきました。各職員の意識も高くなり、研修、ミーティング、各種資料配布、カタグルマ個別評価支援システムの導入等により、理論的背景と創意工夫による楽しさの中にお実践力と洞察力を習得する素地ができた。一方で、実践への応用力という点で、試行錯誤が続き、PDCA サイクルの基本的なフレームワーク、「計画(Plan)」「実行(Do)」「評価(Check)」「改善(Action)」の 4 つの段階を繰り返すことで、業務プロセスの効率化や保育の質の向上を目指すことの習慣性を身に着けるのに時間がかかった。
③	B	個々の職員のチーム保育への理解と実践に必要な相互理解力、コミュニケーション力、協調性、共同性、感謝、敬意、リスペクト、相手に分かりやすく伝える力を養う姿勢はこの 1 年でかなり高まってきた。ミーティングでの活発な意見交換、反省、対策等をチームで行うことを時間をかけて積み上げてきた。個別の意識からチームへと、各職員の意識を移管するためにかかなりの時間がかかったが、「指針に基づく園児主体の保育」を繰り返し伝え続けた結果、チーム保育の実践の重要性を認識できてきた。真のチーム保育を目指して、まだまだ多くの改善点や実践力をチームとして養う必要が課題として次年度に引き継いでいく。

5. 総合的な評価

評価項目	評価内容
運動会アンケート 回収率： 80 %	評価： 日頃は経験できない大人数でのイベントで、緊張したり、恥ずかしがったり、親御さんが気になったり、様々な表情を見せてくれました。その中でも、体操、種目と個性を發揮して一人一人が自分らし 取り組んでいた姿に成長を感じました。他園のお友達の様子に興味津々で見えたり、日ごろ見る 事感じることが出来ない雰囲気の中で、一人ひとりが何かを感じて楽しめたならこのイベントの成果 と言えるのではないのでしょうか。 課題： 観覧席の配置について、子どもさんが見にくいなどの意見があった。 改善策： 本アンケートを参考に、観覧席に配置の改善と、来年は、子どもの姿を見るだけでなく、保護者参観型の親子で楽しく身体を動かす楽しいイベントにできたらと考えております。

作品展アンケート 回収率： 80 %	評価： 回答者の全員がよかったという評価でした。特に作品の制作過程の様子を写真や動画で職員が一人ひとり付いて説明したことで、詳しい内容や作品の完成までのエピソードなど、作品の背景を知ることができたことなどは高評価につながった。 課題： 特に大きな課題はないが、展示までの実際の会場設営を限られた時間の中で行うのが意図だった。 改善策： 展示設営の時間を事前に長く持つようにしたい。
保護者アンケート 回収率： 80	※別添アンケート結果参照 評価： おおむね好評でした。各種アンケート結果を HP で公表していますが、認識できていない方もおられた。実際の保育の様子を見ることができないので、保育内容についての評価は、子どもの話や成長の様子で行うことでしかできない点について課題が見えた。 課題： 園だよりや個別面談時に、写真などを掲載、見ていただいたりしているが、動画での保育の様子を見る機会がない。 改善策： 写真だけでなく、季節の行事などの様子を動画で見れるように取り組んでいきたい。
自己評価(園用)	評価： 園としての目標など、地道に取り組んだことで、子どもの成長や保育環境の向上など、前年度より多くの部分で改善することができた。 課題： 園として、個々の職員が、更なる保育所保育指針の理解を深め、楽しく保育を実践するために、どのように園児の健やかな成長をサポートするか、保育環境を提供方法と工夫を継続するために必要な支援策のさらなる充実が必要。 改善策： 職員のスキル UP 支援のための研修、支援ソフト、態勢、意見交換の場と、改善に対する評価と処遇を推し進めていく。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
子ども主体の保育と人権擁護	個別の対応を具体的にどのように進めていくか、より細かな支援を見据えて、意識と工夫を、研修、ミーティング、系列園からのベテラン保育士等の支援を踏まえて行う。
保育所保育指針のより深い考察	カタグルマ支援ソフトを活用し、様々な評価、コミュニケーション、と図り、職員の資質・知識・スキル・想像力・機動力などをこう z 徴させていく。

職員採用	常勤保育士の採用を強化し、ベテラン保育士、高齢者保育士の活用などを推進していく。